

山本かずや 議員

(一問一答方式)

- ①通学路の安全確保
- ②市内の中小企業の景況
- ③ごみ問題



通学路の安全確保について

**問** 危険なブロック塀の把握と対応はどうなっているか。また、通学路での危険箇所について学校との連携はどうなっているのか。

**答** 本市では、毎年実施している通学路合同点検で通学路にあるブロック塀の形状や劣化等も点検のポイントの一つとして実施しています。これまでにブロック塀の改修等が必要と認められたのは2か所で、関係機関から設置者に改修や改善を依頼しています。その際、

危険なブロック塀の所有者に対しては担当職員が所有者宅を直接訪問し、補助金制度を説明したうえでブロック塀の改修をお願いしています。



通学路合同点検の様子

また、通学路の危険箇所は、教職員による巡回での目視点検を年度初め、夏季休業中、台風通過後等に行うとともに、日ごろから保護者や地域の方々から情報を提供いただき対応しています。さらに、子供の目線での危険箇所や、通学中のひやりとした体験を把握することも大変重要であり、そのようなことがあれば学校に報告するよう指導しています。

今後、子供たちが安全に通学できるよう定期的に点検を実施し、関係機関と連携して危険箇所の改善を図りながら安全確保に努めていきます。

市内の中小企業の景況について

**問** コロナ関連の支援策が多数あるが、事業者の皆さんへの周知はどうなっているのか。

**答** 新型コロナウイルス関連の支援策の周知として

は、現在は対象となる事業者へ郵送で制度の説明や申し込みに関する資料を送付しています。ホームページや広報紙でも周知していますが、その都度見ていただかなければ情報としてタイムリーに伝わらないことや、ファックスやメールの活用も全事業者への周知ができないため郵送しています。

今後は、DX推進計画の中でも産業のDXに取り組むことにしており、SNSはもとよりLINEの活用など、プッシュ型で必要な情報が時期を逸することなくお届けできるような仕組みづくりを検討する必要がありますと考えています。

デジタル化に抵抗を感じる方もいますので、スマートフォンに限らず、その方にとって一番利便性の高い方法が提案できるよう、DXを促進するための支援を強化していく考えです。

ごみ問題について

**問** 人口減少が加速する中、ごみ処理の広域化を実施している自治体もある。本市でも広域化や集約化を行う見通しはあるのか。

**答** 愛媛県では「ごみ処理広域化・集約化計画」を令和4年3月に策定しており、大洲市、八幡浜市、西予市、内子町、伊方町で構成する八幡浜ブロックにおいては10年後に2施設、20年後には1施設に集約化することを目指して検討を進めることが示されました。

現在、八幡浜ブロックで稼働している焼却施設は、大洲市、八幡浜市、内子町の3施設ですが、この3施設とも稼働後20年以上が経過しており、今後経年劣化による性能水準の低下、施設の停止などのトラブルが懸念されます。

そのため、大洲市環境センターでは、施設の長寿命化を図るための基幹的設備改良工事を実施するとともに、日常の適正な運転管理と適切な定期点検、整備に努めることで現施設の延命化を図っています。まずは10年後のブロック内2施設での対応を視野に、共同処理の可能性について協議・検討する考えです。